

2024年度 学校法人 三幸学園 東京リゾート&スポーツ専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 陶山 毅

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 仁志 裕造

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、スポーツ分野の学校として「スポーツを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、スポーツ分野として「スポーツを通じて健康と楽しさを提供できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

(ア) 業界に特化した専門人材を育成するための教育の実践

「スポーツを通じて健康と楽しさを提供する人材」を育成することを目指す人材育成方針とし、単に知識や技術を研究するに留まらず、人間性を高める教育を併せて展開することに注力している。

教育理念である「技能と心の調和」を実践していくため、全教科で授業ガイダンスを実施し、教科の意義や魅力を伝える時間を設けることで授業への意欲向上に努め、日々の授業の中でも教員から現場でのやりがい・資格の大切さを伝え続けて頂くように浸透を進めてきた。

(イ) 業界で活躍できる人材を育成

各学科で「重点教育項目」を作成し、4月の全教職員会議にて全教職員への目合わせを行ってきた。学科チーフを中心に、担当教職員との学科会議を実施することで、学科毎の特性がある教育の質向上を実現できるように計画をしている。また、各授業・教科担当毎に、日々の授業の中で仕事のやりがいや魅力を伝えることでより将来への目標への達成意欲を高め、生徒の「できない」を「できる」に変えていくことに注力いただくよう、先生方に働きかけている。また、即戦力・実践力の向上と地域貢献の観点から、10月から学内フィットネスクラブ(名称:RSLab.)を実施し、学生が自身の学んだ技術を企業様監修の元、アウトプットできる環境を整えた。

② 学校関係者評価委員会コメント

齊藤委員)現場では、自身で研究できる力・素直で謙虚な姿勢が求められる。大学生は将来像が抽象的だが、専門学生は将来像が具体的なので良い。

村越委員)常に能動的に学んでいく力が求められる。言葉遣いや接客の雰囲気などは就職後に経験する壁になるかもしれないが、学ぶ姿勢が大事。

会田委員)学校で学んだ専門知識はあるが、マナーや周りを見て動く柔軟性が自分自身欠けていると感じている。

仁志委員)通信制の学生はもともと体を動かすことが苦手な学生が多い。

朝永委員)学生寮で大学生と一緒にになると良い意味での勢いが薄れてしまう傾向にある。

齊藤委員)経験が一番だと思うのでできるだけ早くアルバイトとしてでも経験をしてほしい。

村越委員)研修はしっかりやるが、本人の選択の余地を持たせるという体制をとっている。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

・留学生、通信制高校出身の人数も非常に増えている状況のため、より社会的ニーズに合わせた授業展開をできるように検討していきたいと考えている(日本語教育、オンライン・オンデマンドをいかに活用していくか)
保護者に学校の理念や教育について伝えきれていない。

② 今後の改善方策

・留学生翻訳の授業導入、日本語能力試験対策
・2025年度よりオンライン、オンデマンド授業の予定(週あたりの登校数を減らす方向で検討)
・2025年度からスクレを導入(保護者にタイムリーに学校の情報を届ける)

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

仁志委員)オンライン授業があることで通信制高校出身の学生も通いやすくなっていると思うが、その先の進学や就職を考えると不安はある。

齊藤委員)会議を対面かオンラインを自由に選択して参加できるように臨機応変に対応している。

陶山副校長)入学前に保護者説明会にて理念を伝えているものの、全ての保護者に浸透しているわけではないと感じている。

加藤さん)今までは手紙等を保護者宛に発送していたが、届かない・見ていないということがあったためスクレというアプリで直接保護者宛に連絡できるように取り組みを始める。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	3
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

・人事、給与に関する制度が2024年度より変更。制度変更されたばかりなので、教職員への浸透が課題。

② 今後の改善方策

2024年度から人事制度が移行している為、教職員会議にて、制度について改めて理解を深められる時間を作り理解の浸透を図る。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

村越委員)当社ではインセンティブ制度を反映できる新人事システム導入をして、何度も周知をしていることで徐々に理解されている、まだまだ浸透しきれていないと感じているので地道に伝えることが必要だと思う。

斉藤委員)当社の給与形体を変えるきっかけは、財務状況に少し余裕ができたことで代表が絶対的な目標を掲げて行動していることが挙げられると思う。代表の意思が社員にも伝わっている。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	3
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- ・アスレティックトレーナー科・スポーツトレーナー科・スポーツインストラクター科・スポーツビジネス科のカリキュラム変更が必要とされている（長らく変更がなかったが、現代の社会ニーズに合わせた学び方や学生のニーズをとらえた科目設定が必要）
- ・スポーツトレーナー科やスポーツインストラクター科の実技授業のカリキュラムが少なく、広報とのギャップがあった。2025年度よりカリキュラム変更を実施。
- ・キャリア教育についてキャリアを意識した授業資料となっているが、担任メンバーが運営していたことで就職指導に寄ってしまう傾向があった。

② 今後の改善方策

- ・各学科、全国 PJT として担当中心に再度科目内容や学び方の見直しを行っており、2025年度から移行できるよう準備を進めている。（他校の競合校・大学の学び方も分析の元）

③特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

澤田さん)実技が多いと思って入学したら座学が多かったという学生の声や現代に合わせてカリキュラム変更をした経緯がある。座学に関しても授業の仕方も工夫を追求していく必要がある。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・入学後のギャップを埋める対策、早期支援や対策が必要。
- ・卒業後の動向把握含め関係構築が必要。卒業生とのコミュニケーションは各担任に依存傾向が強いため強化していきたい。また、同窓会について参加率が低く、参加するメリットを感じさせる事ができていない。
- ・資格の取得率が低減。

② 今後の改善方策

- ・入学後のギャップを埋める施策として授業開始前に初期教育プログラムを実施予定。また、通信制高校卒業後の学生も多くなっているため、アンケートなどを活用した個へのアプローチも実施していく。
- ・2025年度より地区で同窓会を実施していく予定。卒業生代表者を中心に繋がりを深めていく。
- ・卒業生を対象としたリカレント教育を8コンテンツに増やし、オンラインで学びやすい環境を整えていく。
- ・資格取得について、自身の将来に繋がる資格を学生が選択し、資格合格に向けての勉強意欲を高める。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

仁志委員)退学率が高くなっている原因である入学後のギャップとは何かを知りたい。

加藤さん)高校の授業と全く違うことや、入学前はスポーツをすと思っていたのに実際の授業内容は座学の時間が多かったことが原因ではないか。

朝永委員)当社では入社後のギャップをなくしたかったので内定者などには就職後のイメージをたくさん話すようにした。そのような取り組みが今の学生には必要なのではないか。

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

・前途の通り卒業生の動向含め関係構築の強化。

② 今後の改善方策

- ・卒業生 LINE や同窓会、リカレント教育など様々な手段で卒業生に有益な発信をしていく必要がある。
- ・卒業生に向けてのプラットフォーム事業を展開し、卒業後もより良い学びの提供を行う。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

会田委員)卒業後の今もオープンキャンパススタッフとして参加していて、社会に出たからこそ伝えられることがあると気づき、自分の学びになっている。

齊藤委員)当社では社内報にて当スクールの卒業生の活躍を知らせてはいるが、運用に課題感もある。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

なし

② 今後の改善方策

なし

③特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

なし

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	3

① 課題

- ・スポーツ&アクティビティ科の募集について減少傾向がある。
- ・インストラクターという職業にあまり魅力を感じない高校生が多い。
- ・各大学が専門学校に寄せた学科設立に変更して動員獲得を行っているため、募集が減少傾向にある。

② 今後の改善方策

- ・職業魅力付けの為に学科概要冊子の作成。
- ・学校周知を強化する為にHP・デジタルマーケティング・オンデマンド・SNS 関係の中身を強化。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

村越委員)募集が伸びている学科はあるのか、どういった学びなのか、どのような影響があるのかを知りたい。
加藤さん)アスレティックトレーナー科・スポーツビジネス科が伸びている。

アスレティックトレーナー科は、現役のスポーツ選手たちの病気や傷害予防、リハビリ管理が主な仕事となるため、ケガの予防やテーピングなどに関する高度な知識や技術を学ぶ。

スポーツビジネス科は、基礎からスポーツビジネスに必要なマネジメントやマーケティングやチーム経営を学ぶことができる。業界の繋がりを活かした教育連携によって実践的にスポーツビジネスを学べる。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3期中期計画(2023 年度～2027 年度)の2年目にあたり、中期計画及び進捗状況はホームページ上に公開している。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

第3期中期計画については、東京未来大学及び小田原短期大学の中計改定に加え、東京みらい中学校及び支援学校仙台みらい高等学園の内容を追加し、第3期中期経営計画(第2版)として改定する予定である。

④学校関係者評価委員会コメント

なし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

なし

② 今後の改善方策

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

なし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

学内フィットネスクラブの利用者数が増えてない。

② 今後の改善方策

学内フィットネスクラブを10月より運営開始。学生が日頃の学びをアウトプットできる機会となっている。更なる認知拡大の為多くの方に知っていただけるように、ホームページを新たにつくり、SNSやチラシでの告知を強化しより地域貢献を進めていきたい。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

陶山副校長)学内フィットネスでは学生がアルバイトで関わっているが、成長を実感しているのか、学びのアウトプットの場になっているのか伺いたい。

村越委員)アルバイトは大変さが理解できる機会でもあるので、就職前に知ることができるのは企業として貢献できることの1つではある。また、実際のお客様と触れる機会を設けるためにどのように発信していくかが課題と感じている。

会田委員)SNSを活用して、実施の告知だけでなく準備段階から動画で配信すると、過程からゴールまで一緒に体験できるので効果的ではないか。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

2024年度は業界内就職率をみると右肩上がりになっているため、一定の成果に繋がっている。その要因の1つとして、講師との連携・運営メンバーの専門人材の充足が挙げられ、学校の理念や教育方針の浸透が学校全体で図れてきていることが挙げられる。

今後、より一層の向上を目指すために、専門的な内容の連携、そして、多角化している業界のニーズを把握した教育が求められることから、業界関係者とのコミュニケーションを密にしながら学校運営を展開していく。